

平成21年度事業報告

はじめに

財団法人九州ヒューマンメディア創造センター（ヒューマンメディア財団）は、平成8年4月の設立以来、地域経済社会の発展に資するためICT（情報通信技術）を主領域とする事業を、産学官の協力体制の下、具体的な施策として、北九州e-PORT構想の推進、コンテンツ産業の振興、ICT利活用の促進などを図るとともに、積極的にベンチャー支援や人材育成に取り組んできた。

しかし、近年のICTはソフト・機器共に、従来の概念が一日にして崩壊するほどの目覚ましい変革が次々と生じ、これら変革に対応した新たな取り組みとして、これまでの活動の成果を踏まえ、平成21年度は、

I 地域ICT基盤の整備・活用

II 地域課題に対応したICTのプロジェクトの提案・推進

III 高度ICT人材を育成するサービスの提供

へ事業を絞り込み、少子高齢化の進展や中心市街地の衰退など、地域の具体的な課題にICTを活用してその解決を図るとともに、そのための人材育成や起業支援等を大きな柱とする事業計画を策定し、財団の使命である地域産業振興に資するべく全力を傾注してきた。

その結果、FNET（福岡看護eラーニング研究会：看護師を対象とし、地域の医療機関が共同利用可能な、安価で使い易いeラーニングシステム）や、商店街活性化プロジェクト推進（小倉北区魚町商店街における、公共無線LAN・デジタルサイネージ『電子看板』・商店街共通ポイントサービス等）の両事業は、供用開始となる等具体的な成果が見え始めている。

引き続き、この成果を確実なものとするとともに、喫緊の課題である低炭素化社会への対応に向け、地域ICT基盤の更なる活用を図る等、新たな挑戦を続けるものである。

各事業の詳細

I 地域ICT基盤の整備・活用

1 e-PORTプロモーション活動

(1) 市内セミナー実施

北九州市及び周辺地域の企業・団体を対象にe-PORT活用事例等を紹介するセミナーを実施した。

[セミナー実施概要]

名称	開催日・会場	テーマ	基調講演	参加者
地球に優しいコスト削減セミナー	21年9月3日 ステーションホテル小倉	『地球に優しいコスト削減セミナー』 ～グリーンITの未来とデータセンター活用事例～	「デジタル情報革命から環境エネルギー革命へ」 (株)インターネット総合研究所代表取締役 所長 藤原 洋 氏	142人
		①情報システムの安全 運航を目指して	(株)スターフライヤー 経営企画部課長 藤谷 健 氏	
	北九州e-PORT 活用事例紹介	②ITアウトソーシング を振り返って	北九州市総務市民局 情報政策室 藤田 年男 氏	
導入・運用を簡単に 安くするクラウド コンピューティング 実施状況	22年2月16日 ステーションホテル小倉	『導入・運用を簡単に 安くするクラウドコン ピューティング』～ク ラウドコンピューティ ングの本質からECO社 会の実現を目指して～	「クラウドコンピュ ーティングの現状と 展望」 慶応義塾大学デジタ ルメディア・コンテン ツ統合研究機構教授 青山 友紀 氏	137人
		北九州e-PORT 活用事例紹介	①ビジネスインフラと してのデータセンタ ー活用	
		②「ご利用者が心から 満足できる」～日本 一の介護サービスを 目指して～	(株)エルダーサービス 部長 佐伯 知帆 氏	

(2) 九州・国際テクノフェア展示会出展

西日本地区最大規模のICT専門見本市である「九州・国際テクノフェアICT2009」で、e-PORTプレイヤー各社の業務内容紹介パンフレット、車椅子等利用者の外出を支援する3Dナビシステム、肝機能障がい者の鉄分摂取量をコントロールする食事のレシピサービスに関するパネル、機密情報回収ロッカー等を展示するなど、北九州e-PORTを広く紹介した。

[展示会の概要]

名称	開催日	会場
九州・国際テクノフェアICT2009	21年11月11日～11月13日	西日本総合展示場新館

2 北九州 e-PORT 推進協議会の運営

「北九州e-PORT推進協議会」の事務局として、総会・幹事会・交流会などの開催や情報収集・提供、e-PORTセンター広報業務を実施した。

[e-PORT協議会の概要]

北九州 e-PORT 推進協議会構成	会 長
産学官 171 企業・団体	中央大学総合政策学部教授 大橋 正和 氏

[総会・交流会・幹事会・研究会の概要]

名称	開催日	テ ー マ	講演者	参加者
第 4 回 幹事会	21 年 4 月 17 日	<ul style="list-style-type: none"> ・活動計画のフレームワークについて ・部会、ワーキングのテーマについて ・セミナー開催について ・幹事会と推進本部の連携について 		23 人
研究会	21 年 6 月 10 日	データセンターのエネルギー効率化に向けた取り組みのご紹介	インテル(株)マーケティング本部エンタープライズソリューションスペシャリスト 田口 栄治 氏	22 人
第 5 回 幹事会	21 年 6 月 17 日	<ul style="list-style-type: none"> ・新任者紹介 ・第 8 回総会議案審議 		22 人
第 8 回 総会	21 年 6 月 17 日	<ul style="list-style-type: none"> ・1号議案「役員任期」 ・2号議案「21年度活動計画」 	「クラウドコンピューティング」について中央大学総合政策学部教授 大橋 正和 氏	76 人
第 14 回 交流会	21 年 6 月 17 日	インターネットを用いたオープン環境・省エネ対策～『グリーン東大工学部プロジェクト』～ 企業プレゼンテーション	東京大学大学院 情報理工学系研究科教授 江崎 浩 氏 「国際高度情報化と新しい北九州研究会について」 洞海マリンシステムズ株式会社 東京本部長 今田 寿雄 氏	60 人
第 6 回 幹事会	21 年 11 月 17 日	<ul style="list-style-type: none"> ・新任者紹介 ・21年度活動中間報告 ・ポスト e-PORT 検討 		22 人
第 15 回 交流会	21 年 11 月 17 日	設備管理におけるコミュニティ～知識・データの蓄積と利用について 企業プレゼンテーション	早稲田大学大学院 情報生産システム研究科教授 吉江 修 氏 「モバイル通信技術の最新動向」 ソフトバンクモバイル(株) 電波制度部課長 田中 伸一 氏	47 人
研究会	22 年 1 月 25 日	クラウドコンピューティング時代における地域情報産業の在り方	(株)イーシーワン代表取締役社長兼 Ruby ビジネス・コモンズ 会長 最首 英裕氏	29 人

※会場は全て財団ビル マルチメディアホール

3 e-PORT 新事業創出プロジェクト

e-PORT 発の新規事業・新規サービス創出を支援するため、斬新かつ有望な新規事業開発や新規サービス開発に取り組む企業に対し、データセンター施設・設備の低廉な料金による提供、施設・設備の活用方法に対する情報提供、新商品・新サービ

ス販路開拓、販売促進による支援を行うものである。

21年度は、福岡看護eラーニング研究会に対して、サービス実施に必要なデータセンター施設を提供した。

[FNET（福岡看護eラーニング研究会）の概要]

福岡eラーニング研究会は、看護師を対象とし、地域の医療機関が共同利用できる安価で使い勝手の良いeラーニングシステムの開発、供用を目的とするもの。

研究会 医療機関、大学など9団体
(会長：小倉第一病院 副院長 中村 秀敏 氏)

サービス開始 平成21年5月1日
年度末利用者数 研究会メンバー189人(9施設)(22年3月末現在数)
モデル病院 611人(3施設)(22年3月末現在数)
有料会員 19人(1施設)(22年3月末現在数)

4 e-PORT次期プランの策定

平成23年3月に終了する「e-PORTフェーズIIプラン」に続く、次期e-PORTプランを策定するため、「ポストe-PORT検討委員会(委員長：北九州市立大学大学院マネジメント研究科 城戸 宏史 教授)」を設置し、22年2月2日(火)に第1回委員会を開催した。

5 LGWAN-ASP事業

電子自治体実現の基盤となる総合行政ネットワーク(LGWAN)への接続設備を北九州e-PORTセンターに整備し、自治体向けにITサービスを行う企業向けにLGWAN-ASPサービスを提供した。

CMS ミシマOAシステム(株)
グループウェア ミシマOAシステム(株)
電子申請システム (株)BCC

[電子申請サービス運用状況]

18年 1月 北九州市が運用開始
18年 10月 久留米市が運用開始
19年 4月 福岡市が運用開始

6 エムサイト運営事業

「メディア・コンテンツ産業」の育成及び市内の集積を図るため、コンテンツ系企業や創業を目指す者を対象とし、AIMビル7階に展開するメディア・コンテンツ産業の拠点施設「エムサイト」にて「メディア道場」および「メディアインキュベートルーム」を運営した。

(1) メディア道場の運営

映像・音響系機器を設置し、映像撮影から編集までコンテンツの制作活動に必要な施設や機材を民間企業等に低額で貸出した。

[施設・機材貸出実績]

編集スタジオ	レコーディングスタジオ	セミナー室	機材利用
144回	4回	100回	635回

(2) メディアインキュベート施設の運営

メディア・コンテンツ系ベンチャー企業の創業を支援するため、起業家や起業支援を行う企業・研究機関を対象とし、インキュベートルームを低額で貸出した。

インキュベート支援のため、入居企業に対し新規コンテンツ企画を募集し、学習コンテンツと求職者支援コンテンツ制作支援を行った。

[メディアインキュベートルーム入居企業]

企業数	貸出床面積
6社	350.92 m ²

II 地域課題に対応したICTプロジェクトの推進

1 商店街活性化プロジェクトの推進

(1) 北九州ICTインテリジェントエリア実験

中心市街地商店街の課題解決を図る無線LANやデジタルサイネージ等のICT基盤を活用したユビキタス実証を実施した。

実証に際して、文部科学省の「先導的ITスペシャリスト育成推進プログラム」の拠点校である九州工業大学大学院のPBL（Project Based Learning、プロジェクトを実際に体験し課題解決を習得させる育成手法）カリキュラムと連携し、同校学生に約5か月間、企画・運営・成果取りまとめ等を体験させるなど、ICT人材を育成した。実証成果の一部は、ユビキタスマールのベースとなった。

[実証の概要]

商店街来訪者の男女別・年齢別・過去の購入履歴等を来訪者が持つIC端末から電波情報で読み取り、来訪者の購買ニーズを反映した商品宣伝等を瞬時にデジタルサイネージ（電子看板）に表示するシステムを設置、有効性等を検証した。

項目	実証スケジュール		内容
アプリケーションの開発	21年10月19日～11月中旬		アプリケーション仕様の検討
	21年11月中旬～12月末		アプリケーション構築
	22年1月～		実験方法の確定
	22年1月23日～1月24日		魚町商店街での公開実証実験
	22年2月～		学生による成果取りまとめ
実施体制	主催	協力	参加学生
	ヒューマンメディア財団 九州工業大学 北九州市	北九州市立大学、北九州商工会議所、九州インターネットプロジェクト、九州情報通信連携推進協議会、九州電力(株)、新日鉄ソリューションズ(株)、日本テレコムインフォメーションサービス(株)、日本電気通信システム(株)、西日本電信電話(株)、(株)日本統計センター、(株)ネットワーク応用技術研究所、富士通九州ネットワークテクノロジーズ(株)	九州工業大学大学院 北九州市立大学

(2) 北九州市ユビキタスマール構築モデル事業

都心部商店街の賑わいや活力を創出するため、魚町商店街に北九州市及び魚町一丁目商店街振興組合、魚町商店街振興組合と共同で総務省交付金を活用し、これからの地域の情報発信に必要な公共無線LANやデジタルサイネージ（電子看

板)等のICT基盤を整備した。

《基盤の概要》

ア 公共無線LAN

商店街への来訪者が自由に利用可能で、パソコンや無線LAN機能付の携帯電話、携帯ゲーム機等も接続可能な公共無線LANを構築した。

[無線LANの概要]

利用周波数帯	2.4GHz及び5GHz帯(IEEE802.11.b/g/a)
設置箇所	小倉北区魚町商店街アーケード内(中継器8か所)
稼働時間	24時間
運営主体	ヒューマンメディア財団

イ デジタルサイネージ

地域情報を効果的に伝えるデジタルサイネージをアーケード内に設置した。

また、イベント等と連携したコンテンツの企画・制作の円滑な運営を図る体制を商店街振興組合内に構築した。更に、本市の魅力を紹介するコンテンツ等も制作した。

[デジタルサイネージの概要]

形式	背面投射型(100インチ×3基)
設置箇所	小倉北区魚町商店街アーケード天井に懸下 *魚町一、二、三丁目に各1基配置
稼働時間	8時～21時
放映内容	行政情報(市政広報・防災情報等)
	店舗情報・地域イベント情報
	北九州市の魅力を紹介する各種コンテンツ
	民間CM等
コンテンツ内容	魚町ユビキタスマール紹介
	魚町ビジョン紹介
	北九州ヒトモノ図鑑(北九州の特産物紹介)
	北九州市民時計(市民参加型の時報)
	魚町フォトアルバム(新旧魚町を写真紹介)
	高校生4コマ漫画(高校生制作の漫画を紹介)
	魚町銀天街CM
魚町ユビキタスマールテーマソング	
運営主体	商店街振興組合

ウ ICカードによる商店街共通ポイントサービス

購買意欲を喚起し、顧客の購買情報を詳細かつ効率的に収集するICカードを活用した商店街共通ポイントサービスを導入した。また、オリジナルカードとして電子マネー「WAON」を搭載したUOCAを発行、JR九州発行のSUUGOCAやおサイフ携帯でも利用可能とした。

[I Cカードの概要]

発行枚数	17,000枚
カードリーダー	90台
事業開始時参加店舗	41店舗
運営主体	商店街振興組合

エ 顧客情報管理 (CRM) システム

I Cポイントカードで収集した情報を基に、購買動向の分析や広告・クーポンの効果的なメール配信等を実現する顧客情報管理システムを導入し、商店街全体としての集客力や販売力を強化した。

運営主体	商店街振興組合
------	---------

オ 店舗情報発信システム

魚町商店街振興組合及び魚町一丁目商店街振興組合のホームページを統合し、都心部商店街の情報発信力を高めると共に、各店舗からの買物情報やクーポン等の販促情報を簡単に入力、更新するシステムを導入した。

運営主体	商店街振興組合
------	---------

2 FNET (福岡看護 eラーニング研究会) 事業 (再掲)

[福岡看護 eラーニングの概要]

福岡 eラーニング研究会は、看護師を対象とし、地域の医療機関が共同利用できる安価で使い勝手の良い eラーニングシステムの開発、供用を目的とするもの。

研究会 医療機関、大学など9団体
(会長：小倉第一病院 副院長 中村 秀敏 氏)

サービス開始 平成21年5月1日
年度末利用者数 研究会メンバー189人 (9施設) (22年3月末現在数)
モデル病院 611人 (3施設) (22年3月末現在数)
有料会員 19人 (1施設) (22年3月末現在数)

[コンテンツの主な内容]

医療安全管理	医療事故とは・医療事故発生のメカニズム、ヒューマンエラーに関する知識、新人が起こしやすい医療事故の事例
院内感染防止	院内感染とは・標準予防策とは・手洗い、手指消毒の基本・新人が間違えそうな院内感染防止策・新人でも大丈夫な院内感染防止策
個人情報保護	個人情報について学ぼう！・個人情報保護法とは・個人情報が漏れるとどうなる？・病院の中での個人情報、カルテの中の個人情報
コミュニケーションスキル	コミュニケーションの重要性・第一印象がとても重要・挨拶できていますか？・患者さんとのコミュニケーション
疾病	糖尿病の基礎知識・高血圧の基礎知識・心臓病の基礎知識・腎臓病の基礎知識・感染症の基礎知識・癌の基礎知識
医療技術	手洗い・手指消毒・体位変換・車椅子移動・食事介助・排泄介助・口腔ケア・血圧測定・注射薬の準備法・静脈注射・筋肉注射・皮下注射・輸液ポンプの操作法・採血・血糖測定・気管内吸引・胃管挿入法・中心静脈カテーテル管理法・救急蘇生法・AED操作法

3 新分野への利活用の検討

(1) 農業とICT研究会

北九州地域の農業が抱える課題の研究会、公開討論会、意見交換を実施した。

[研究会の概要]

研究会	開催日	研究会構成員
第1回	21年6月29日	半田 正樹 氏 (農業コンサルタント/半田税理士事務所) 中村 吉孝 氏 (中村農園代表/㈱桃源舎 代表取締役)
第2回	21年7月15日	藤原 浩俊 氏 (福岡県農業会議 総務課長) 安高 澄夫 氏 (あたか農園)
第3回	21年7月29日	城 平八郎 氏 (北九州市西部農政事務所長)
第4回	21年8月26日	萩原 浩 氏 (北九州市地産地消課 課長) 土谷 重幸 (ヒューマンメディア財団専任主幹研究員)

[公開討論会の概要]

テーマ	講演	開催日	会場	出席者
販売・生産・流通が相互に学ぶ 公開討論会	北九州青果株式会社取締役 役営業企画部兼開発部長 木村 陽二 氏	21年8月7日	AIMビル7階 オープンラボ	22人

(2) 大学におけるICT活用支援

学士力の確保や教育力の向上を目的とする、地域の大学の教育システム構築を支援した。

具体的には、教職員のニーズ整理・要件定義の策定を支援し、既存システムとの連携を検討した。

[教育支援システムの概要]

ア 授業形態・成績評価基準等を明示したシラバスシステム

イ 学生のキャリア形成を見据えた履修・計画・登録システム

(3) 福祉分野におけるICT利活用の検討

ICTの導入が遅れている福祉、介護分野へのICT活用方策の研究として、介護支援端末を商品化した企業や、市立福祉用具プラザ北九州等において実情を聴取した。また、九州インターネットプロジェクト(QBP)の研究交流会にて、講演やパネルディスカッションを開催し当該分野の現状を調査した。

[研究交流会の概要]

第1回QBP研究交流会	
21年8月28日	AIMビル KTI小ホール
◆講演：介護・福祉分野の現状と課題/元西南女学院大学 准教授 一広 伸子	
第2回QBP研究交流会	
21年11月4日	AIMビル 313会議室
◆パネルディスカッション：ICTは福祉を豊かにするのか	
／コーディネーター	元西南女学院大学 准教授 一広 伸子
パネリスト	㈱ネットワーク応用技術研究所 システム開発部長 石垣 信一 NDソフトウェア㈱九州営業所 所長 米澤 昭

(4) 車椅子等利用者の外出支援システム

車椅子等利用者が外出するに際しては、道路段差、階段・歩道の有無、更には坂の緩急等が障害となる場合もある。

この解決には、車椅子等利用者が個人の体力や車椅子等の種類を入力することで、最短かつ最も容易に目的地へ到達する経路を示す3D（3次元）ナビゲーションシステム（外出支援システム）が必要で、㈱インコムジャパン・九州産業大学・九州工業大学の3者が協業でシステムを事業化するにあたり、この事業化を支援した。

中心市街地活性化事業に取り組む黒崎商店街に、車椅子に座ったままで操作可能な3D情報端末（なびがらす）を設置し、実証試験を平成21年11月から22年3月までの約4月間実施した。

車椅子等利用者が情報端末を実際に使用することで、使い勝手や、設置場所についての意見等を聴取し、また、一般人からも意見等を聴取した。

平成22年度は、サーバインキュベート等の支援を継続する。

[実証試験の概要]

設置期間	設置場所	端末名称	実証参加者
21年11月1日～ 21年11月28日	イベントスペース黒崎	なびがらす（車椅子専用ナビゲーションシステム端末）	300人以上
21年12月1日～ 22年3月21日	黒崎連合商店街振興組合事務所		

(5) グリーンITの推進（スマートビル化調査）

平成21年度に、当財団が取り組むスマートビル化実証事業にあたり、ビルのエネルギー使用状況、スマートビルの先進事例、風力・太陽光発電設備、高効率照明機器等を調査した。

平成22年度は詳細計画を策定し、風力・太陽光発電設備の導入をはじめ、スマートビル化に向けた実証を進める。

(6) カーアプリケーション研究会

F A I S（財北九州産業学術推進機構）・九州工業大学・市内情報サービス企業10社で構成する研究会にて、今後普及が見込まれる車載汎用コンピュータ（カーPC）を活用した具体的事例の研究や市場調査等を実施した。

今後のビジネス展開を視野に、アプリケーション活用が期待できる介護事業・観光事業・運輸・産業廃棄物処理・レンタカー等の市場を調査した。

Ⅲ 高度ICT人材の育成

1 北九州地区ICT産業集積・活性化のための高度人材育成

北九州地区の情報サービス産業の集積・活性化及び高度ICT人材の育成を目指す人材育成研修を当財団セミナールーム等で実施した。

平成20年度に北九州地区のIT関連技術者が習得すべき技術項目を体系化した

「北九州版ITスキル標準（K T S S）」をベースに策定した研修プログラムは、経済産業省「地域企業立地促進等事業費補助金」に採択され、3 コース計 11 講座を実施した。

実務能力の向上に主眼を置き、地域の実情を踏まえた具体的事例による演習、実機を活用した実践的研修内容は評価が高く、定員 130 名に対し 147 名が受講した。

特に、ネットワーク構築関連・データベース構築関連のテクノロジー・メソドロジ研修には、北九州地域以外からも多くの申し込みを受け、ニーズの高さを確認した。

[開催状況概要]

名 称	研修項目・講座	開 催 期 間	受講者	
プロジェクトマネジメント研修	プロジェクトマネジメント（基礎編）研修	21年 8月 3日～ 8月 4日(2日間)	14人	
	プロジェクトマネジメント（実践編）研修	22年 1月 20日～ 1月 22日(3日間)	12人	
ヒューマンスキル研修	プレゼンテーション研修	21年 7月 31日～ 8月 6日(2日間)	12人	
	リーダーシップマネジメント研修	21年 11月 19日～11月 20日(2日間)	15人	
テクノロジー・メソドロジ研修	ネットワーク構築関連研修	サーバ構築講座	21年 11月 9日～11月 11日(3日間)	13人
		ルーティング講座	21年 11月 12日～11月 13日(2日間)	13人
		セキュリティ講座	21年 12月 7日～12月 9日(3日間)	14人
		ネットワーク管理講座	21年 12月 10日～12月 11日(2日間)	14人
	データベース構築関連研修	SQL技術講座	21年 9月 10日～ 9月 11日(2日間)	13人
		データベース設計講座	21年 9月 16日～ 9月 18日(3日間)	13人
		データベース運用管理講座	21年 10月 14日～10月 16日(3日間)	14人

2 組込系ソフト技術者養成研修

地域の情報サービス系企業が、組込みソフトウェア分野へ参入可能な基礎知識の修得を目的とした座学による研修を、当財団セミナールーム等で実施した。

座学研修終了後は、設計からテスト工程までの実際の組込み開発のプロセスに即したOJT研修を、北九州地域で組込みに取り組む先進企業にて実施した。

座学講座の成果指標であるETECクラス2試験（社団法人組込みシステム技術協会（JASA）が実施する組込み技術者向け試験）では、参加4名全員が目標としていた500点以上（800点満点）を上回る成績を獲得した。

[開催状況概要]

研修名称	研修項目・講座名	開催期間
座学研修	適性試験及び面接	21年 9月 1日～ 10月 9日(22日間)
	C言語入門講座、ロボット入門講座	
	ETEC対策講座、マイコン入門講座	
OJT研修	マルチタスク制御における異常検出機能の組込開発	21年 10月 13日～ 11月 6日(16日間)
	産業用ロボットの制御支援システム開発	21年 10月 13日～ 11月 6日(21日間)

3 北九州デジタルクリエイターコンテスト

優秀なクリエイターの発掘・育成を目的として「第4回北九州デジタルクリエイターコンテスト (KDCC)」を開催した。

Viscuit というビジュアル言語を使用した作品を主に募集し、講演会1回、ワークショップ3回を実施した。

[概要]

募集期間	平成21年12月15日～22年1月31日
応募作品	432作品
公開審査会	平成22年2月20日
場所	西日本工業大学デザイン学部 (小倉キャンパス)3階大講義室
入選作品	各賞7作品 入選71作品
審査員	桂 英史 氏 (東京藝術大学准教授) 中原 蒼二 氏 (プロデューサー) 原田 康徳 氏 (Viscuit開発者/NTTコミュニケーション科学基礎研究所主任研究員) 牧野 伊三夫 氏 (画家)
展示会	平成22年4月23日～22年6月末日 小倉北区魚町商店街「魚町ビジョン」で放映

4 地域プロデューサー養成講座

北九州市の地域戦略をプロデュースする人材を育成するため、メディアリテラシーやプロジェクトの企画・立案方法を学ぶ講座を開催した。

市内企業の広報・企画担当者、地元マスコミ従事者、NPO幹部等が受講した。

[講座の概要]

項目	開催日	テーマ	講師名	参加者
キックオフ	21年4月23日	発想する作法	ボトルメール開発者/横浜国立大学共同研究推進センター客員教授 永井 義人 氏	17人
第1回	21年5月26日	アジアで最も創造的なビジネス街を目指して～天神・福岡都心の街づくり戦略	福岡アーバンラボラトリー代表 後藤 太一 氏	41人
第2回	21年6月26日	街と大学が関わることー建築系研究室の実践を通して	神奈川大学工学部建築学科教授 曾我部 昌史 氏	39人
第3回	21年7月24日	「新しい土着」をめぐる「技」と「芸」	東京藝術大学映像研究科准教授 桂 英史 氏	31人
第4回	21年8月26日	ネット時代の新しい「地域コミュニティ」の作り方～個人店とネットの融合で街をライブ会場化する試み～	コメディイヤー研究家/(有)大日本生ゲノム代表取締役 須田 泰成 氏	38人
第5回	21年9月26日	フィールドワーク	プロデューサー 中原 蒼二 氏	33人
企画	21年10月17日	受講生ミーティング		35人
第6回	21年11月30日	地域プロデューサープレゼンテーション会	プロデューサー 中原 蒼二 氏	35人

第7回	22年1月28日	町の古本屋にできること	「古書ほうろう」共同経営者 宮地 健太郎 氏	27人
第8回	22年3月25日	『現代的な不幸』と2010年代	慶応義塾大学総合政策学部准 教授 小熊 栄治 氏	26人
特別 企画	22年3月27日	さんぽサンデーとほほん市 in 小倉		

5 慶應大学との連携による事業プランニング研修

慶應義塾大学大学院経営管理研究科と連携し、起業して間もない経営者や、起業を目指す受講者・聴講生を対象に、テレビ会議システムを使用して、経営戦略とその具体化の方策について、ケースメソッドに基づく研修を行った。

受講生・聴講生は、本市を含め全国5ヶ所で同時受講した。

受講者：3名（面接により選抜）

聴講者：延べ30名

[研修の概要]

開催期間	会場	全国拠点（各3名・全国15名）	
21年9月9日 ～ 12月19日 全12回	AIMビル7 階メディア道 場(2回は東京で スクーリング)	札幌市	NPO法人 札幌ビズカフェ
		山形市	東北公益文科大学
		神奈川県藤沢市	㈱MMインキュベーションパートナーズ
		高知県本山町	本山町商工会青年部
		北九州市	ヒューマンメディア財団

IV その他

1 広報活動（情報誌「H U - D i A」の発行）

当財団の事業や活動状況を分かり易くタイムリーに掲載した情報誌「H U - D i A」を発行した。

[H U - D i Aの概要]

発行月 平成21年6月（第18号）

部数 1,200部

内容 「平成21年度事業計画」及び「平成20年度事業報告」

「ヒューマンメディア財団のご紹介」

「地域関連団体のご紹介 K I P（北九州情報サービス産業振興協会）」

「T o p i c s 九州インターネットプロジェクト（Q B P）」

配布先 情報関連企業

各種団体

賛助会員

K I P役員・評議員 他

2 関係団体との連携と交流協力

(1) K I P（北九州情報サービス産業振興協会）の運営

北九州地域の情報サービス関連企業で組織されたK I P（北九州情報サービス産

業振興協会)の事務局を担い、交流事業、人材育成、調査研究等の活動を支援した。

今後の北九州市、ヒューマンメディア財団及びK I Pの活動・施策に反映させるため、地域ニーズの高い人材育成に重点を置き、K I P会員企業を対象として、本市の情報サービス産業の売上、雇用状況、主な事業領域、年毎の変化等を調査した。

[K I P会員数]平成22年3月31日現在

総会員(企業・団体)	うち正会員(企業・団体)	うち賛助会員(企業・団体)
60	35	25

[K I Pの主な事業]

名称		開催期間・会場	テーマ	講師	参加者
設立 20周年 記念	講演会	21年5月19日 リーガロイヤル ホテル小倉	「不況に強い人材を作る」 松下幸之助の人づくりに学ぶ	経営コンサルタント 中博氏	163人
	交流会		対象企業		156人
			K I P会員企業及び市内企業		
事業名		開催期間・会場		内容	参加者
人材 育成 事業	K I P スクール	1回	21年6月22日～24日 財団ビル セミナールーム	C#基礎コース	14人
		2回	21年6月29日～7月1日 財団ビル セミナールーム	JAVA基礎コース	16人
		3回	21年7月13日～16日 財団ビル セミナールーム	C#応用コース	10人
		4回	21年7月21日～24日 財団ビル セミナールーム	JAVA応用コース	15人
交流 事業	K I Pサロン	21年11月26日 財団ビル マルチメディアホール		講演会	70人
				交流会	66人
	経営者交流会	21年11月5日 九州ゴルフ倶楽部八幡コース		交流会	13人
		21年2月3日 財団ビル マルチメディアホール		勉強会	14人
中堅社員交流会	22年2月25日 ㈱デンソー北九州製作所		施設見学会・交流会	29人	

(2) ICT研究開発関連団体との連携

ICT利活用の動向を把握すると共に、産学官の連携を推進するため、九州インターネットプロジェクト(QBP)や九州情報通信連携推進協議会(KIAI)の活動を事務局として支援した。

[QBPの活動概要]

第1回交流会	
21年7月16日	AIMビルITオープンラボ
◆講演：NALが取り組む音声サービスの紹介	
第1回研究交流会	
21年8月28日	AIMビルKTI小ホール
◆講演：介護・福祉分野の現状と課題	
◆講演：クラウド時代の北九州e-PORT構想の展開	
◆講演：シスコが取り組むミリ波帯高速無線伝送システム	

第2回研究交流会	
21年11月4日	A I Mビル313会議室
<ul style="list-style-type: none"> ◆講演：超音波測距センサーによる人群観測ネットワークの検討 ◆講演：携帯電話のGPSセンサーによる生活習慣観測システムの検討 ◆パネルディスカッション：ICTは福祉を豊かにするのか 	
ワークショップ	
21年11月27日～28日	ウェルサンピア福岡
第1セッション／ICTを活用した防災への取組	
<ul style="list-style-type: none"> ◆講演：電子国土の現状について ◆講演：九州広域防災ポータルサイトの概要について ◆講演：災害時における臨時的無線ネットワーク構築実験 ～宮崎県美郷町におけるフィールド実験結果報告～ ◆講演：今後のK I A Iの展開について 	
第2セッション／ネットワーク技術最前線	
<ul style="list-style-type: none"> ◆講演：3.9Gを利用したLTEの実証実験について ◆講演：IPネットワークにおけるサイレント故障の見える化技術 ◆講演：スマートグリッドのための通信ネットワーク 	
第3セッション／ユビキタスセンサーネットワーク	
<ul style="list-style-type: none"> ◆講演：携帯電話のGPSセンサーによる生活習慣観測システム ◆講演：超音波測距センサーによる人群観測ネットワークの検討 	
第4セッション／ICT利活用検討	
<ul style="list-style-type: none"> ◆座談：ICTは福祉を豊かにするのか 	
第5セッション／次世代無線ネットワーク技術動向	
<ul style="list-style-type: none"> ◆講演：UQ WiMAXサービスとこれを支える技術について ◆講演：IEEE802.11無線LAN標準化の最新動向 ◆講演：KDDIが取り組むモバイルネットワーク最新技術 	

[K I A I の活動概要]

九州ICTセミナー2009	
21年6月2日	N T T夢天神ホール
<ul style="list-style-type: none"> ◆講演：我が国におけるICT国際戦略 ◆講演：ネットワーク研究開発の現状と課題 ◆パネルディスカッション：ICTで九州にもっと活力を 	
九州情報通信連携推進協議会 総会・記念シンポジウム	
21年6月25日	アーバンオフィス天神
<ul style="list-style-type: none"> ◆講演：オープンイノベーションによる街づくり～大阪北ヤードナレッジキャピタル構想について～ ◆パネルディスカッション：ICT活用は地域社会にどこまで浸透したのか 	
広域防災情報共有化に関するワークショップ	
21年9月28日	大分ソフィアホール
<ul style="list-style-type: none"> ◆講演：Web-GISの現状等について ◆講演：電子国土の今後の動向等について ◆報告：九州広域防災ポータルサイトのデモ・プレゼンテーション ◆パネルディスカッション：防災情報共有化におけるICTの役割 	

小型バルーンを活用した災害時における臨時的無線ネットワークの構築実験	
21年11月19日～20日	宮崎県東臼杵郡美郷町
◆実証実験：バルーンを活用して災害時の臨時無線LANを構築する実証実験を通じて、技術的可能性や実効性を検証。	
九州 JGN2plus シンポジウム in さが	
21年12月15日	佐賀新聞社本社
◆講演：クラウドがもたらす社会変革～ A Walk in the Clouds ～ ◆講演：自治体クラウドへの取り組みと将来への期待 ◆トークセッション：九州における自治体クラウドへの取り組み ◆パネルディスカッション：クラウドは地域に何をもたらすか～その期待と課題～	
九州地域情報化研究会	
22年1月21日～22日	九重町役場 301 会議室
◆講演：地域情報化と地域おこし ◆小学校遠隔交流授業デモンストレーション ◆タウンミーティング：田舎に似合う情報通信利活用術 ◆講演：地域情報化と地域おこし	
九州 ICT オープンスクール	
22年3月26日～27日	北九州テレワークセンター会議室
◆検討会：学生を中心に地域情報化の事例を調査し、これからのサービス案を検討	

3 財団ビル運営（特別会計）

ヒューマンメディア財団ビル（八幡東区東田）のテナント入居率は約95%と高率を維持している。今年度は、4,400万円をビルの修繕積立金及びビル付属設備積立金に充てた。

[財団ビルの入居状況（平成22年3月31日現在）]

入居企業・・・9社（入居率94.6%）

フロア	入居企業名
7階	新日鉄ソリューションズ(株)
6階	セイコーエプソン(株)
5階	
4階	
3階	(株)タカダイインホメックス、データキューブ(株)、(株)ソフトサービス、(株)九州テン、ビズ・コレジオ(株)、(株)ワンビシアーカイブズ
2階	セイコーエプソン(株)、(株)ジェイリンク
1階	ヒューマンメディア財団

○ 就業者数・・・約170名